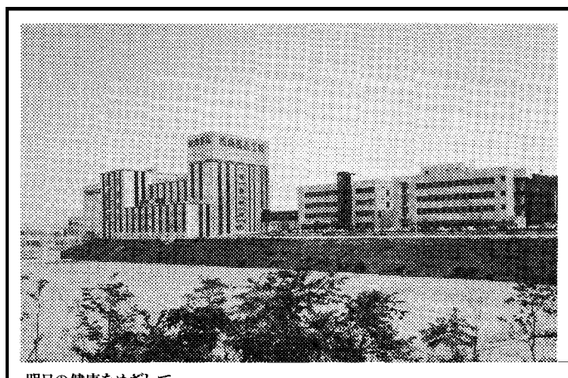
gsk GlaxoSmithKline
生きる喜びを、もっと
Do more, feel better, live longer

グラクソ・スミスクラインは、研究に基盤を置く世界をリードする製薬企業です。中枢神経領域、呼吸器領域、ウイルス感染症、がん治療領域などの医療用医薬品やワクチン、「コンタック」「アクアフレッシュ」などのコンシューマーヘルスケア製品を通じて、人々がより充実して心身ともに健康で長生きできるよう、生活の質の向上に全力を尽くすことを企業使命としています。

グラクソ・スミスクライン株式会社
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15 GSKビル
http://glaxosmithkline.co.jp



点滴などの輸液や
人工腎臓用透析液でのトップメーカー

私たち扶桑薬品工業は創業以来半世紀余、治療上不可欠な医薬品のみを一筋につくり続けて参りました。その成果のひとつが、点滴としてなじみ深い輸液や、人工腎臓用透析液の分野でのトップクラスの実績となってあらわれています。

私たちは、これからもたゆむことなく、生命関連産業に携わる一員として、真摯にその本分を尽くしてまいります。

明日の健康をめざして
扶桑薬品工業株式会社　●本　社／大阪市中央区道修町1丁目7番10号　●本社事務所／大阪市城東区森之宮2丁目3番11号　TEL（06）6969−1131（大代表）　http://www.fuso-pharm.co.jp

製薬業界では世界的な創薬競争が続き、より創薬が難しい疾患への挑戦が続いている。当然研究開発のコストがかさむため、各社得意な疾患領域に狙いを定め、研究開発費を効率的に運用している。がんや生活習慣病、中枢神経系といった領域はいまだ有効な治療法が確立されておらず、アンメットメディカルニーズ（いまだ満たされない医療上の必要性）が高いことで知られる。そのため、各社それら領域を標的に研究開発を進めている。

狙いを定めた挑戦

がん領域

がんは製薬企業各社の動きが最も激しい疾患領域。国内の最近の動きを見ても、活発な研究開発と製品投入が続いていることが分かる。

武田薬品工業は前立腺がん薬「TAK−700」の臨床第3相試験を開始した。前立腺がんが再発した患者に対する試験。再発性前立腺がんは効果的な治療法がなく、新薬への期待が高い。同薬は男性ホルモンの生成に重要な役割を持つ酵素の働きを阻害して、精巣や副腎由来の男性ホルモンの生成を抑える。欧米でも臨床第3相試験を進めている。

第一三共は1月、抗体医薬品「ランマーク」（一般名デノスマブ）の日本での製造販売承認を取得した。近く発売する予定。多発性骨髄腫による骨病変および固形がん骨転移による骨病変が適応症となる。

昨年発売されたフェソロデックス（アストラゼネカ）

ランマークの成分は米アムジェンが開発した。第一三共は日本での開発・販売権を得ている。がん領域での日本の開発状況を見ると、乳がん術後補助療法で臨床第3相試験を進めている。このほか、関節リウマチ、骨巨細胞腫でも同第2相試験中。第一三共は2011年5月に、アストラゼネカとランマークの共同販促契約を結んだ。両社のノウハウを生かして普及を進めたい考えだ。

また、アストラゼネカは11年11月に乳がん治療薬「フェソロデックス」（一般名フルベストラント）を発売した。同社は現在、自社が扱う製品の売上高トップ10のうち、5製品ががん関連。日本で30年以上がん領域に取り組んでいる。

活発な製品開発・投入

「個別化医療」への対応も

エーザイはH3バイオの新研究所を稼働し、創薬研究を進める

エーザイは11年12月、米国研究子会社のH3バイオメディシンの新研究所を稼働させた。いまだ十分な治療法が確立していないがんに対して、患者個人に沿った治療法を提供する個別化医療を見据え、最新の遺伝子科学に基づいた創薬研究を進める。H3バイオは10年12月に設立した。エーザイはH3バイオへ総額約160億円の研究資金を投資する予定。

アステラス製薬は現在開発中の抗がん剤15プロジェクトのうち、半分ほどを診断薬とセットで開発している。アステラス薬は外部資源を活用して効率良く創薬していく「オープンイノベーション」を積極化しており、診断薬の研究開発にも採用している。

スイスのロシュグループである中外製薬は、診断薬事業を担うロシュ・ダイアグノスティックスとの連携を強めている。診断薬メーカーをグループに持つ国内企業は協和発酵キリンなど数少ない。一体開発できる利点をフルに生かし、創薬の切り札にしたい考えだ。

生活習慣病領域

激戦続く降圧剤ARB

配合剤で広がる治療選択肢

生活習慣病領域では、高血圧治療薬、とりわけARBと呼ばれる医薬品で、激戦が続く。ARBはアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬という。アンジオテンシンⅡは受容体と結合して血管を収縮し、血圧を高める。ARBはアンジオテンシンⅡが受容体と結合するのを妨ぐことで血管を拡張させ、血圧を下げる効果がある。同じ高血圧薬のカルシウム拮抗薬と並び、高血圧治療で多く処方されている。

日本のARB市場は薬価ベースで4000億円から6000億円といわれる。最近は薬価改定や後発医薬品（ジェネリック医薬品、後発薬）の登場で、市場は漸減傾向にあるとされる。だが、年間1000億円を超える売上高を誇る大型薬（ブロックバスター）がひしめく〝激戦区〟だ。

武田薬品の「ブロプレス」（一般名カンデサルタン シレキセチル）とノバルティスファーマの「ディオバン」（同バルサルタン）は世界的なブロックバスターで、日本でも市場のけん引役となっている。そのほかアステラス薬と日本ベーリンガーインゲルハイムの「ミカルディス」（同テルミサルタン）、第一三共の「オルメテック」（同オルメサルタン メドキソミル）も売り上げを伸ばしている。

さらに、塩野義製薬の「イルベタン」、大日本住友製薬の「アバプロ」（どちらも一般名イルベサルタン）もある。これらは08年発売で日本では後発。だが、世界80カ国以上で売られるブロックバスターだ。

この市場に新たな薬が加わる。武田薬品の「アジルバ」（同アジルサルタン）だ。アジルバはほかの高血圧薬よりも血圧を下げる効果が高いことが証明されている。

武田薬品にとって、アジルバへの期待は大きい。ブロプレスは特許切れによる後発薬の参入が、近い時期に訪れる。14年ごろと言われ、そうすると低価格の後発薬に押され、日本での売上高が下がっていく。特許で保護された新薬のアジルバは収益性が高く、おのずと力が入る。

ARB市場は近年、単剤ではなく、利尿剤やカルシウム拮抗薬などとの配合剤（合剤）の利用が伸びている。利尿剤などと併用すると降圧効果が高い。だが、患者にとって複数の錠剤を服用するのは大変で、一緒の錠剤にしてしまった方が飲みやすい。

ディオバンとカルシウム拮抗薬の合剤「エックスフォージ」、ブロプレスと利尿剤の合剤「エカード」をはじめ、各社が合剤を投入している。今後は合剤、単剤を交えて、広がった治療選択肢の中でしのぎを削ることになる。

売り上げを伸ばすオルメテック（第一三共）

ARB市場をけん引するブロプレス（武田薬品）

Pfizer
Working together for a healthier world™
より健康な世界の実現のために

みなさまに希望をお届けするために。

様々な病気に打ち勝つため、ファイザーは、世界中で新薬の研究開発に取り組んでいます。

ファイザー株式会社　www.pfizer.co.jp